



今回の対談のお相手は…

株式会社 A.Y.Judie (エイワイジュディ) は、小諸に本社を置きながら、IDケースやパスケースなどビジネスシーンで使う小物を中心に取り扱っています。店頭からマスクが消えた今年4月、「なんでもマスク」を世に送り出し、一躍注目を浴びています。会長兼デザイナーの土屋順子さん、社長の土屋香南子さんに、お話を伺いました。
(聞き手：市長 小泉俊博)

対談

企画



「なんでもマスク」

クリップを生地に留めることで、文字通りどんな生地も簡易マスクにできる、マスク用ストラップ。発売当初は、入荷即完売となりました。現在は、常時購入できます。

「小諸の地から いいモノ こだわりの製品を」

—A.Y.Judieという会社のスタートについて、教えてください。

順子さん—2006年に設立した会社です。私はもともと幼稚園から高校までずっと小諸に住んでいたんです。縁あって軽井沢で結婚し、そこで初めて小売業を始めました。皆さんにモノを買っていただき、喜んでもらえることの楽しさを学びました。当時は経済が右肩上がり成長を続ける時代で、お店も大きくなっていました。お店も大きくなっていましたが、「大量生産・大量消費」という考え方に、私自身が馴染めなくなっていました。

「いいモノをデザインし、作って、売っていきたい」という思いが強くなったので、小売業をリセットして、他のことがやってみたいになりました。

モノづくりの完全な素人にも関わらず立ち上げたのが、今の会社です(笑)

—40代での起業だったと伺っています。どのような苦労や葛藤があったのでしょうか。

順子さん—年齢的なものは感じませんでした。むしろ、進学で子どもたちが私のもとかから離れていったことで「今がチャンス」と考

えていたくらいです。

—自分が一つことを起こそうと考えているときって、年齢は関係ないですよね。

順子さん—関係ないと思います！でも、希望に満ちた起業ではなかったんです。自分の仕事のやり方に悩み、苦しんでいたことで、「押し出されるように」新たな会社をスタートしていたからです。



土屋 順子さん

—当時、香南子さんは大学生になる頃だったそうですが、新たな決断をされたお母さんを見てどうでしたか？

香南子さん—やりたいことをやっていく母でしたので、「やらずにはいられない」のだと思って応援していました。起業してしばらく、電話をするたびに母は、「次はうまくいきそうなのがある」「今度こそは」という話をしていたので覚えています。一回や二回の失敗で挫けずにポジティブに、「次は…」と考えられることが母の強いところだと思います。